

M.N.さん（幼児教育コース）
近江八幡市（幼保） 合格

【はじめに】

私は幼稚園教諭になりたいと思い滋賀大学に入学しましたが、授業を通して「私は教師に向いているだろうか」と不安に思うことが何度もありました。ですが、3回生での幼稚園実習を経験し、授業では感じられない、教師の楽しさややりがい、むつかしさを直接経験して教師になると決意しました。採用試験に向けて勉強に取り掛かったのは、12月の下旬からでした。教員養成合宿で先輩から教えていただいた参考書を中心に、勉強を少しずつ進めました。2月と3月は実習があったため勉強はできませんでした。そのため、4月から勉強を再開しました。

【試験の流れと内容】

○一次試験（9月21日、日曜日）

一般教養：40問 120分

専門科目：「幼稚園教諭職」

保育内容や保育原理をはじめ、評価方法の問題や指導法

○二次試験（10月25日、土曜日）

集団面接：経験者と学生は違うグループにされていました。

指定の様式の自己紹介書を記入して当日に提出しましたが、そこからの質問は一つもありませんでした。「保育者になろうとおもったきっかけ」「保育者に必要な資質とは何か」という実践論で練習するような内容を中心に、「この市の就学前教育の特徴と課題」といった質問までありました。

実技試験：ピアノ

課題曲バイエル 100～104の中から当日一曲指定

弾き歌い「あひるの行列」は初見です。

それぞれ練習は1分程度あります。

言語

紙芝居の絵を一枚渡され、その場で3分程度のお話をつくり、子どもがいる設定で話す。お話を考える時間は1分ほどあります。

○三次試験（11月16日、日曜日）

個人面接：試験官は7名ほどおられ、20分程度でした。二次試験で提出した自己紹介書からの質問はありませんでした。小学校の免許も取得見込みだったので「小学校へのスムーズなつながりを作るために、幼児期に大切にしたいこと。それを育てるための」具体的な援助方法」という質問をされました。「今、あなたが気になる幼児教育で変化は何か。理由と一緒に」というように、具体的に詳しくは質問されることが多かったです。

作文：50分 800文字

『幼稚園教諭、保育士職である以前に、市職員として大切にすべきことは何か』

【試験対策について】

○筆記試験：筆記試験は一般教養と専門科目があります。私はまず初めに数的処理から始めました。というのも、数的処理は一般教養の試験の中でも一番多くの問題数があり、得点源だと教員養成合宿で教えていただいたからです。私は勉強が得意ではなかったのですが、数的処理は参考書もわかり易かったせいか、勉強する気持ちは高めることができました。一般教養は様々な分野から広く出るので、問題数が多いと聞いていた政経を、中学や高校の教科書や参考書を見直しながら、ノートにまとめていきました。また、友だちと一緒に覚えた事を言い合っ

たりして音で覚えたりしました。

専門科目は教育分野と養護分野を分けて勉強しました。教育分野は問題文が少し違うだけで、同じ答えであることが多いと勉強していて感じたので、たくさん問題を解くことを意識しました。養護分野は保健や栄養、乳児保育や障害児保育と勉強する内容が多かったのととても時間がかかりましたが、興味のある内容だったので、ノートにまとめて覚えました。

勉強が思うように進まない時は、友だちと一緒に勉強することで気分転換ができたり、頑張っている友だちを見たりして、もっと頑張ろうと思うことができました。

○実技試験：私はピアノが弾けないので、筆記試験の勉強の気分転換の間にピアノに触ったりして、少しでも慣れるようにしていました。また、先生にピアノを見てもらってアドバイスを貰ったり、友だちに教えて貰ったりしました。

言語の対策では、図書館の絵本を読んで簡単なお話のストーリーをノートに箇条書きにして、試験で使えるようにしていました。考えたお話を友だちと発表し合い意見を出しあうこともしました。

○面接試験：面接練習は教職実践論で教えていただいたことを、何度も自分の言葉で発表する練習をしました。また、友だちと一緒に質問を出し合い、面接の練習をしました。面接で答えることは、小論文や作文で使えると聞いていたので、面接用にノートを作っていました。

【最後に…】

私は途中で「どうしてこんなに長い時間をかけて頑張っているんやろ」と嫌になりそうな時がありました。ですが、そんな時に友だちの頑張っている姿を見たり、一緒に試験対策をする中で笑いあったりして、もう少し頑張ってみようと思うことができました。採用試験を通して仲間の大切さを改めて感じる事ができました。みんなで支え合って頑張りたいと思います。みなさんの夢が叶うことを陰ながら祈っています。

H.T.さん（学校心理コース）

財務省大阪税関 内定

【内定までの流れ】

（3回生）

10月 公務員試験（国家一般職、地方上級など）に関する情報（試験内容、日程、勉強法など）を調べる。

11月～2月 勉強計画を立て、本格的に勉強を開始する。官庁の説明会などに参加し、各官庁に関する情報を得る。

3月 模試の受験と復習に力を入れる。

（4回生）

4月～5月 本番前の追い込み。時間を測って勉強する。

6月 公務員試験（一次）を受ける。

7月 国家一般職試験の一次試験に合格し、官庁訪問を始める。国家一般職試験の二次試験（人事院面接）を受ける。滋賀県職員上級試験の一次試験に合格し、二次試験を受ける。

8月末 国家一般職試験の二次試験に合格し、採用面接を受け、大阪税関から内定を頂く。滋賀県職員上級試験も最終合格したが、辞退する。

【試験内容】

国家一般職試験（行政）についてのみ記述します。地方公務員試験（県庁や市役所など）は自治体によって内容や制度が異なるため、希望の試験について自分で調べてください（自治体のホームページなど）。

一次試験には、基礎能力試験と専門試験があります。基礎能力試験には、「一般知能」（文章理解、判断推理、数的推理、資料解釈）、「自然科学」（物理、化学、生物、地学など）、「人文科学」（日本史、世界史、地理、思想など）、「社会科学」（政治・経済、社会、時事）があります。専門試験には「法律系科目」（憲法、民法、行政法など）、「行政系科目」（行政学、政治学、社会学など）、「経済系科目」（ミクロ経済、マクロ経済など）などがあります。これらの一次試験は、すべて5択のマーク式です。

二次試験には、一般論文試験（一次試験のときに実施）と人事院面接があります。

国家公務員試験では、最終合格＝採用ではありません。そのため、上記の試験とは別に官庁訪問をする必要があります。官庁訪問とは、一次試験合格者が税関や検察庁、法務局などの官庁を各自訪問し、業務説明を受けたり、面談・面接をしたりすることです。訪問する官庁数の制限はありませんが、実際は時間的な制約があるため自分が希望する官庁を第一志望から順に決めておく必要があります。官庁訪問は、1回目は自分で予約するのですが、2回目以降は基本的に官庁から連絡を頂いて訪問することになります。そして、何度か官庁訪問を重ね、採用面接を受けるという形になります。したがって、国家一般職の職員として採用されるためには、国家一般職試験に最終合格し、なおかつ官庁から内定を頂く必要があります。

【勉強方法と面接対策】

私は、すべての試験に独学で臨みました。

筆記試験については、とにかく過去問を何度も解くようにしました。まず、試験の傾向を把握したり、問題形式に慣れたりする必要がありますが、過去問を解くことでこれらのことが同時にできます。また、試験の難易度は年によって多少変化しますが、極端に変化することは考えにくいので、過去問での知識が試験問題を解くための核となるため、過去問を中心とした勉強がおすすめです。もちろん、過去問だけではカバーできない部分もありますし、いきなり過去問を解こうとしても理解できない科目もあります。ですので、必要に応じて自分に合った参考書を使うことも求められます。また、時事問題も出題されるため、新聞を毎日読むように心掛けていました。

面接については、ほとんど対策はできませんでした。というのも、筆記試験の勉強で精一杯

であったため面接の対策まで手が回らず、また、独学であったため本格的な対策は不可能であったからです。このような状況でも、自分の過去の経験やそこから学んだこと、志望動機、希望する官庁の特徴など、最低限の情報は整理するようにはしていました。しかし、対策が不十分だったと感じることが多く、ほとんど対策をせずに内定を頂けたのは運が良かったからだと思うので、きちんとした対策が必要です。また、人前で話すことが苦手な人や、目上の人と話すことに不慣れな人はきちんと対策をしておかないと、面接の内容以前に印象が悪くなってしまい不利になってしまいます。

【公務員試験を通して】

公務員試験を通して感じたことをお伝えしたいと思います。

第一に、説明会には積極的に参加すべきだということです。私はもともと教師が第一志望でなかったこともあり、様々な進路について調べました。特に、公務員について調べ、公務員試験のための勉強を始めましたが、勉強を始めた当初は具体的にどの公務員になりたいのかは決まっておらず、漠然としたイメージしか持っていませんでした。そこで、自治体が開催する説明会（自治体のホームページ参照）や国の様々な官庁が参加して行われる公務セミナー（人事院のホームページ参照）などに参加するようになりました。私は、公務セミナーに参加したことが税関に興味を持つきっかけとなりました。そこでの仕事内容の説明や職員の方の雰囲気がとても良かったので、公務員の中でも税関を目指そうと具体的な目標ができたのです。また、勉強に集中できなくなっているときには、やる気を出すためのとても良い刺激になると思います。ですので、自治体や人事院などのホームページをこまめにチェックして、最新の情報を常に手に入れておく必要があります。

第二に、なぜ公務員なのか、そしてなぜ公務員の中でもその官庁あるいは自治体なのかということに対して明確な答えを持つことです。教育学部の学生は、なぜ教員ではないのかということも当然質問されます。私の場合は100%聞かれました。そのときに、教員よりもその官庁あるいは自治体で働くことを強く志望していることを伝えなければなりません。また、明確な志望動機を持つことで、やる気を継続させ集中して勉強に取り組めるようにもなります。したがって、面接のためだけではなく、自分自身を奮い立たせるためにも、具体的にどのような公務員になりたいのかを明確にすることが大切だと思います。

【後輩に向けて】

公務員試験は科目数が多く、勉強量が膨大で初めは何から始めればよいか分からないと思います。また、憲法や民法、経済学などは教育学部の学生にとっては馴染みの無い科目なので、戸惑ってしまうかもしれません。しかし、明確な目標を掲げ、それに向かっての計画を立て、きちんと対策をすれば初学者であっても試験に合格することは十分可能です。みなさんが自分で工夫や努力を重ね、希望の進路に就けることを願っています。

A.N.さん（文化情報コース）

滋賀県庁（行政） 内定

【学習経緯】

2013年10月下旬	公務員の道に進むことを決め、予備校に入学。 年末年始はゼミなどで忙しく模擬試験だけを受けていた。
2014年2月下旬	公務員試験の勉強に本格的に取り組む。
4月	国家総合職1次試験、不合格。
5月	国立大学法人1次試験、不合格。
6月	滋賀県庁1次試験、合格。
7月上旬	滋賀県庁1.5次試験、合格。
7月下旬	滋賀県庁最終試験、合格。

・国家総合職や国立大学法人は本番の試験に慣れるために受験した。滋賀県庁を目指す人の大半は、国税専門官や裁判所事務官、国家一般職なども受験していたが、私は併願先を増やして第一志望である滋賀県庁の対策がおろそかになることを避けたかったので、その他は受験しなかった。

【志望理由】

大学で教育について学び、学習塾のアルバイトなども経験していくなかで、教師としてではなく、子どもたちを取り巻く環境の支援に携わることのできる仕事に就きたいと考えるようになったから。そして、地元である滋賀県に貢献したいという思いから、滋賀県庁を第一志望に決めた。滋賀県庁は専門試験があるため、勉強量が多い。そのため私と同じ時期に勉強を始めた人は教養のみの勉強を選択する人が多かったが、十分間に合うので、自分が本当に行きたいところを選択することをおすすめする。

【1日の学習時間】

10月～2月上旬は週2、3回で3～6時間。

2月中旬以降はほとんど毎日で10時間前後。

・学習時間については個人差があり、何時間勉強すれば受かるというものではない。大切なのは、自分が体を壊さない程度で“継続して”学習を行うこと。

【試験内容】

<滋賀県庁（行政）>

1次試験：6/22（日）

教養試験、専門試験、面接カード

・数的処理が例年より解きやすい問題だった。とにかく難しく考えず、常識的判断で肢を切れるところは切り、わからなければ次の問題に移る。数的処理は問題数が多いが、苦手な人がほとんどなので解けなくても焦らないこと。他の科目で十分カバーできる。

・物理や化学が例年簡単になっているようなので、よほど苦手でない限り手をつけたほうがよいと感じた。実際に私は本番で、生物が難しく感じたので一切勉強をしていない化学を解き、正解することができた。

・時事問題と絡めた問題がよく出ていたので、時事問題の対策は必須。おすすめの教材は、『速攻の時事』（実務教育出版）。

・面接カードには「ここ2、3年でがんばったこと」を2つ書く。試験当日は事前に書いたものを提出するだけだが、当日その場で書いて提出している人もいた。しかし、この面接カードは1次試験が通った後、1.5次試験の面接官の資料になるので、書いたものをコピーしておき対策するためにも、当日書くことは避けたい。

1.5 次試験：7/5（土）

個別面接（3人の面接官で20分程度）

- ・試験日は7/5～9までの5日間のうちいずれか1日で、受験場号が早い順だった。受験番号は1次試験の受付順に割り振られていったので、その辺りを考えて受付を済ませるのも一つかもしれない。
- ・面接カードに書いたエピソードのうち、どちらか一方を選択することができたが最終的に両方のエピソードについて聞かれた。主に真ん中に座っていた女性の面接官から質問を受けたが、両隣に座っていた男性の面接官にも1つか2つ質問を受けた。面接の雰囲気は比較的和やかだった。

2 次試験：7/27（日）、7/30（水）

1 日目…面接カード書き込み、論文、適性検査

2 日目…集団討論。個別面接（20分程度）

- ・1 日目は全員受験。面接カードの書き込み時間が短いため、志望動機や自己PRなどを早く書けるようにしておくこと。この面接カードも個別面接の資料になる。適性検査の対策は要らない。論文対策はとにかく添削を受けること。私は論文が苦手だったので、はじめは構成だけを箇条書きにしてみてもらうことから始め、その構成を基に最後まで論文を書き上げる練習を繰り返した。難しい言葉を使おうとせず、問題点とその解決策、結論がわかりやすい論文を書くということを常に意識した。
- ・2 日目は1.5 次試験と同様、7/30～8/3までの5日間のうちいずれか1日。集団討論は、協調性をみられる。討論のグループのなかで自分だけ目立とうとしないこと。だからと言って全く発言しないのもだめ。グループみんなで討論を盛り上げていくイメージ。言葉遣いはあくまでフォーマルに。個別面接は多少圧迫気味だった。教育学部なのになぜ公務員かということを中心に聞かれた。おそらくこの点については必ず聞かれるので、その心づもりをして、その質問を受けても動揺せずに笑顔で受け答えすること。

【おわりに】

私は、独学ではなく予備校に通うことを決めましたが、独学でも十分合格できると思います。「予備校に行けば安心だ」と考えてしまうようならば、むしろ独学をおすすめします。要は、どのような方法であっても、「集中して勉強に取り組む」こと、先にも述べたように、「継続して取り組む」ことが重要なので、自分一人で決めきれないなら、家族や友人、大学の先生等に相談してじっくり考えてみてください。

試験の直前期などは精神的に不安定になったりしますが、それは公務員試験を受ける人誰もが経験することだと思ってもらって構いません。自分を責めたり焦ったりせず、毎日やるべきことをきちんとこなしていくというような形でいいと思います。また、どの教科に力を入れるか、勉強方法はどうすべきかなどで悩むこともあるかと思いますが、いろいろな方からアドバイスを聞き、自分に合った方法を自ら選択していくことが大切です。基本的には、苦手教科に力を入れること（高得点はとれなくてもいいので苦手意識をなくす）、完璧を求めすぎないこと（満点をとる人なんていない）の2点さえ守っていただければ、筆記試験にそれほど大きな差はでないと思います。

長々と書きましたが、少しでも参考になれば幸いです。励まし、高めあえる仲間を見つけ、先生や家族に頼るところは頼りながら、辛い時期がきても諦めず最後まで頑張ってください。皆さんの合格を願っています。

M.H. さん（体育・健康教育コース）
三重県警 内定

【勉強のスケジュール】

〈3回生〉

12月 参考書を買ひ、勉強を始める

1月～2月 教員採用試験と警察官採用試験の勉強を並行して行う

3月 警察官採用試験に絞って勉強する

〈4回生〉

4月 過去問を解き始める

5月 試験までは何週も過去問をする

一次試験受験（筆記試験＋体力試験）

6月 面接対策と体力づくり

二次試験（面接＋体力試験＋小論文＋適性検査）

7月 教員採用試験一次試験（三重県と滋賀県の中学校保健体育）→不合格

三重県警採用試験合格

【試験を終えて】

私は、教員採用試験と警察官採用試験を一つに絞れず、どちらも並行して勉強をしていたので、どっちつかずになってしまったと感じています。本当に公務員になりたいのであれば、公務員試験に絞って勉強することをおすすめします。私は大学に入るまでは、警察官になりたかったのですが、教員という仕事にも魅力を感じ、最後までどちらか迷っていました。迷っているときに感じたことは、教育学部であるため、周りにあまり公務員試験を受ける友人がおらず、また教授にも言いづらく、相談できないということです。しかし良いこともあります。周りが教員採用試験に向けて一生懸命勉強しているため、自分も刺激を受けて勉強する習慣が自然とつきます。人それぞれだと思いますが、私は一緒に勉強してくれた友人のおかげで真剣に勉強できたと感じています。私は教員採用試験対策も行っており、教職実践論を履修していたので、面接や小論文の対策にもなりました。教員採用試験と並行して進めたことはデメリットばかりではありませんが、人に流されやすいタイプの人には絞って勉強することをおすすめします。

そして教員採用試験と違って、公務員試験はたくさん受けるところがあるので、受験を考えている方はいろいろなところを受験してみてもよいと思います。

【一次試験】

一次試験は、筆記試験と体力試験でした。筆記試験は一般教養のみで、体力試験は都道府県によって違うと思いますが、三重県は握力、上体起こし、反復横跳び、腕立て伏せ、立ち幅跳びでした。他の受験者と差がつく種目もあるので、決められた回数まではできるようにしておくべきです。アピールしたいなら最後まで残れるような体力が必要です。日ごろ運動しておくことをおすすめします。筆記試験は過去問よりも難しかったので、どのような問題でも解けるように勉強しておく必要があると思います。また、さまざまな公務員試験を受けるのであれば、試験内容や難易度もそれぞれであるので、対応できるようにしておくべきであると感じました。

【二次試験】

二次試験は面接と体力試験です。二次試験も都道府県によって違いますが、三重県は個人面接で、面接官が3人でした。面接カードに基づいて質問されますが、私が一番初めに聞かれたことは、「教育学部なのになぜ警察官を志望したのか」ということです。この質問は教員以外の仕事に就こうと考えている方は明確な答えを考えておいた方がいいと思います。二次の体力試験は20mシャトルランでした。女子は35回が最低条件で、65回で終了という形式でしたが、最後まで走りきれ体力はつけておくべきだと感じました。警察学校に入ってから体力は必要なので、試験に向けて体力づくりをするのも時間の無駄ではないと思います。

小論文の内容は「防犯に対する県民の意識を向上させるための対策」でした。自分がどうしたいかどのような警察官になりたいかということを確認しておくべきであると考えます。

【後輩に向けて】

公務員試験はとても大変です。私のように最後までどっちつかずで勉強を進めない方がいいと思います。周りが教員採用試験に向けて勉強に励んでいる中、自分は試験が違うので、この勉強方法であっているかとか他の人たちはどこまで進んでいるかなどがわからず、自分なりにネットや本で調べて勉強してきました。試験に関する情報がとても少ないので、同じ試験を受ける人や公務員試験を受ける人を探して、情報を共有することをおすすめします。また、公務員試験に絞っているのであれば、予備校に通うことも一つの手だと思います。勉強方法や試験の情報を知ることができ、周りも公務員志望なので、刺激を受けるとと思います。筆記試験の勉強も面接対策も自分でしなければいけないので、私は試験が終わってから予備校に通っておけばよかったと後悔しました。後輩の皆さんはぜひ考えてみてほしいと思います。

3回生から勉強を始めて周りに合わせてだらだらしている間に4回生になってすぐ試験が始まるので、きちんとスケジュールを立てて早め早めの行動をおすすめします。

友人と朝から晩まで大学で勉強したことは私にとってとても良い思い出になりました。皆さんも最終的によい思い出になるように精一杯勉強に励み、志望する職業に就いてほしいと思っています。

お役に立つかはわかりませんが、ここまで読んでくださりありがとうございました。頑張ってください。